

院政期の文化

11世紀末～12世紀の院政期は、時代の転換期といえる。軍事貴族は西へ東へと戦に赴き、各地の有力農民を従えて勢力を伸ばした。この動きに合わせ、文化もダイナミックに動いた。都の文化が地方へ普及して、例えば奥州藤原氏のような地方豪族が、新たな文化の担い手として参加し、華麗な阿弥陀堂を建立した。

○地方と庶民の文化

●地方へ普及する文化

国風文化以降、末法思想と結びついた⁽¹⁾ _____ が次第に広がった。

→12世紀には、^{ひじり}聖や^{しょうにん}上人の布教で全国に広がった。

⇒奥州藤原氏などの地方豪族も「阿弥陀堂」を建立した。

◇聖…寺院に所属せずに諸国をまわって修行する仏教僧

◇上人…寺院に所属する高位の仏教僧への敬称

<阿弥陀堂>

(2) _____ (陸奥国、現岩手県平泉)

(3) _____ (陸奥国、現福島県いわき)

(4) _____ (豊後国、現大分県豊後)



図1 藤原清衡



図2 藤原基衡



図3 藤原秀衡

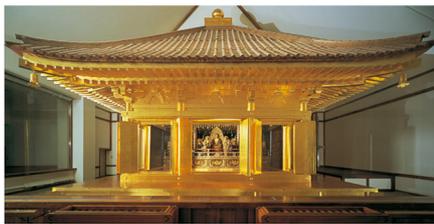


図4 中尊寺金色堂



図5 白水阿弥陀堂



図6 富貴寺大堂

●受容される庶民の文化

当時、庶民のあいだで⁽⁵⁾ _____ ・⁽⁶⁾ _____ という芸能や、

⁽⁷⁾ _____ という歌謡が流行した。

⇒貴族は当初庶民の文化を嫌悪したが、次第に受容していった。

◇(5) …田の神を祀る歌や舞が発達した芸能

◇(6) …滑稽なものまね、曲芸などが発展した芸能



図7 田楽（『鳥獣戯画』より）

<代表的な歌謡集>

『⁽⁸⁾ _____』…⁽⁹⁾ _____ 上皇が今様を集成した歌謡集

異常な今様狂い—後白河上皇

後白河上皇は今様狂いの上皇として有名である。今様は本来庶民が楽しむ「卑しい」歌謡で、上皇がとりつかれるのは破格なことであった。

後白河は10歳頃から今様に打ち込み、昼夜問わずに歌い続いて3度も声帯を潰した。上手と聞けば、京の男女・地方の遊女など身分を問わずに教えを乞うた。後白河の振る舞いは、鳥羽上皇をはじめ貴族らの批判を受けた。



○院政期の文学と絵画

●文学

地方・武士の動きに関心が高まったことで、合戦を題材にした軍記物語が書かれ、
また、時代の転換期を感じて歴史に関心が高まったことで、⁽¹⁰⁾ _____ が書かれた。

<軍記物語>

『⁽¹¹⁾ _____』…平将門の乱（935～40年）を記す、最初の軍記物語

『⁽¹²⁾ _____』…前九年合戦（1051～62年）を記す軍記物語

<歴史物語>

『⁽¹³⁾ _____』…藤原道長を中心とする摂関政治の栄華を批判的に記述した歴史物語

『今鏡』…(13)の後の出来事を記した歴史物語

『⁽¹⁴⁾ _____』…藤原道長の栄華の賛美を中心とした歴史物語

◇『六国史』のような歴史書が漢文で記述されたのに対し、歴史物語はかな書き和文で記述

<その他>

『⁽¹⁵⁾ _____』…インド・中国・日本の仏教説話を和漢混淆文^{こんこうぶん}で記した説話集

●絵画

大和絵の手法による絵に詞書^{ことばがき}を織り交ぜて時間進行を表現する絵巻物や、
扇形の紙に経文^{きょうもん}を書いて装飾した写経（装飾経）が作られた。

◇大和絵の手法は、例えば「吹抜屋台」「引目鉤鼻」



図8 吹抜屋台

<絵巻物>

『⁽¹⁶⁾ _____』…動物を擬人化して、貴族社会や仏教界を風刺した作品

『⁽¹⁷⁾ _____』…紫式部が著した物語を絵画化した作品

『⁽¹⁸⁾ _____』…応天門の変を生き生きと描いた作品

『⁽¹⁹⁾ _____』…信貴山^{しぎざん}の毘沙門天^{びしゃもんてん}信仰の靈験縁起談^{れいげんえんぎだん}を描いた作品



図9 引目鉤鼻



図10 『源氏物語絵巻』



図11 『伴大納言絵巻』



図12 『信貴山縁起絵巻』

<装飾経>

『⁽²⁰⁾ _____』…平氏一族の繁栄を祈り、安芸国の^{あき}厳島神社^{いつくしま}に奉納された装飾経

『⁽²¹⁾ _____』…扇形の紙に、京の民衆の生活を描いた装飾経



図13 平家納経



図14 扇面古写経



図15 『鳥獸戯画』



図16 声の流線表現